



植村尚史教授



後藤純一教授

年金と少子化の合同研究会

2003年8月29日および9月3日の両日、年金と少子化をめぐる合同研究会がA 3班・A 4班によって開催された。参加メンバー各自から、これまでの研究経過および今後の研究推進にかかわる計画が報告され、質疑応答となった。2005年における研究書刊行に向け準備を整えた次第である。この研究会には特別ゲストとして植村尚史教授（早稲田大学）および後藤純一教授（神戸大学）が招待され、年金をめぐる世代間公平性や国際経済におけるヒト・モノ・カネの代替性についてそれぞれ報告があり、活発な討論がくりひろげられた。



Philip Davis教授と高山憲之教授



浅野幸弘教授

企業年金問題を徹底討論

2003年9月18日と19日の両日、東京の一橋記念講堂で退職金・企業年金問題をめぐる会議が開催された。報告者は浅野幸弘教授（横浜国立大学）、石田成則教授（山口大学）、徳住祥蔵氏（新日鐵）、古市峰子氏（日本銀行）、山口修氏（住友信託銀行）、戸塚達也氏（三井住友銀行）およびP. Davis教授（Brunel大学）であった。低金利の年金ALM、DC年金の実態調査、給付設計の弾力化、年金基金の会計処理、年金債務の評価、人事と年金およびイギリスの年金危機等。多岐にわたる問題をめぐって詳細な報告が行われ、徹底した討論が長時間続いた。報告用資料と報告論文はホームページ（<http://www.ier.hit-u.ac.jp/jprc/>）に掲載済み。



石田成則教授



徳住祥三氏



古市峰子氏



戸塚達也氏



山口 修氏

鴫田忠彦教授、逝去

A 2班（医療・介護班）の研究代表者としてPIEプロジェクト発足以来、研究を精力的にリードしてきた鴫田忠彦教授（一橋大学）が2003年11月、逝去した。PIEプロジェクトにおいて鴫田教授が行った多大な学術的貢献に深く感謝するとともに、心より哀悼の意を表する次第である。なおA 2班の研究代表者は田近栄治教授（一橋大学）が引き継ぐことになった。



故 鴫田忠彦教授



高山憲之教授（於上海）

バランスシート・アプローチの提案

本研究領域代表の高山憲之教授（一橋大学）は公的年金改革をめぐってバランスシート・アプローチを新たに提案し、2003年9月から11月にかけてストックホルム（スウェーデン）、ミラノ（イタリア）、上海（中国）でそれぞれ研究発表した。年金財政の現状を適切に把握するためにバランスシートが不可欠であること、年金保険料の引き上げをはじめとする各種の政策手段が年金財政にどのようなインパクトを与えるのか、その政策評価がバランスシートで可能となること、等を主張している。

移行国班ワークショップ

2003年10月31日、京都市内のキャンパスプラザ京都にて移行国班（研究代表者：西村可明教授）のワークショップが開催され、中東欧・旧ソ連諸国の年金改革・人口動態・労働市場について5時間にわたる討議が行われた。当日の報告者は吉野悦雄教授（北海道大学）、上垣章教授（西南学院大学）、池本修一教授（日本大学）、岩崎一郎助教授（一橋大学）、佐藤嘉寿子氏（一橋大学大学院）、田畑伸一郎教授（北海道大学）、大津定美教授（大阪産業大学）、久保庭真彰教授（一橋大学）。過去数年間の研究蓄積が反映された大変充実したワークショップであった。